

会 議 記 録

会 議 名 称	第7回杉並区社会教育委員の会議
日 時	令和6年9月6日（金）午後3時03分～午後5時00分
場 所	中棟4階 第二委員会室
出 席 者	委員 諸橋、宮内、檜枝、南、青木、天野、荻上、笹井 区側 生涯学習推進課長、社会教育センター所長、管理係長、社会教育推進担当係長（社会教育主事）、社会教育センター社会教育推進担当係長（社会教育主事）
配 付 資 料	<配布資料> 1 第6回社会教育委員の会議記録 <参考資料> 1 令和6年度杉並区の教育 2 令和6年度小学生名寄自然体験交流事業参加児童募集案内 3 天体観望会「秋のお月見会」チラシ 4 第71回杉並区総合文化祭チラシ 5 杉並区青少年委員だより第82号 6 令和6年度版杉並区の図書館～図書館要覧～ 7 令和6年度杉並区立男女平等推進センター啓発講座チラシ 8 一般社団法人全国社会教育委員連合『社教情報 No. 91』案内
会 議 次 第	I 報告事項 1 今後の会議予定について II 協議事項 1 今期の検討課題「社会教育活動への支援のあり方について」について ○社会教育活動の広がりをつながり ○社会教育に取り組む人々の生きたネットワーク III その他
（意見要旨）	
<p>○副議長 議長到着まで進行させていただきます。生涯学習推進課長よりご挨拶をお願いいたします。</p> <p>○生涯学習推進課長 私共は、社会教育委員の会議のまとめをよりどころに社会教育・生涯学習の事業を進めていくこととなります。18期のまとめに向けて今回から本格的な議論になると思っております。よろしくをお願いいたします。</p> <p>○副議長 配付資料の確認をお願いいたします。</p> <p>○社会教育推進担当係長（社会教育主事） （配布資料説明）</p>	

- 議長 遅れて申し訳ありません。では、事務局から報告事項をお願いします。
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事）（今後の予定について説明）
- 議長 それでは協議事項の検討課題「社会教育活動への支援のあり方について」です。小項目として「社会教育活動の広がりつつながり」と「社会教育に取り組む人々の生きたネットワーク」となっています。
- 杉並区は社会教育活動が盛んに行われていますが、社会教育活動を広げていくためには何をすればいいのか、個々に点在する活動がどうつながればもっといいものになるのか。専門職員や社会教育士がそこにどう関わるのかは置いておいて、そういった観点から知恵や意見、アイデア等を出していただければと思います。
- 委員 「すぎなみプラス」というプラットフォームは資金や人材、行政にどう相談したらいいかわからないことも相談できると聞きました。活動がたくさんあって分かりにくいので、プラットフォームのようなものがあればいいのかもしれないませんが、それも活用されない機能しないのかなと思っています。
- 委員 社会教育活動をしている人はローカル情報や人とのつながりを求めていると思います。それには同じ地域を共有する共同体であるかをいかに認識してもらえるかが大事です。属人的ではなく、縦割りも超えて、どう人々ローカルな情報や人とのつながりを手渡していけるかに興味があります。立派なサイトをつくれればいいのかというところではなく、最終的には人伝手だと思っているので、東京らしいやり方を見つけられたらと思います。
- 議長 貴重なご指摘ありがとうございます。要するに情報交換の場をつくるということだと思います。
- 委員 自主的な活動の全てが社会教育というわけではないと思っています。学ぶチャンスを広げていくものがつながりなのだと、社会教育行政が区民に伝えていくことが大事だと思います。
- 議長 日本社会のコミュニティはクローズドになりがちです。オープンなイベントの参加者が仲間内や関係者で構成されることを壁と言うとしたら、その壁をどう低くするかが大きな課題です。
- 公民館の役割は「集う・学ぶ・つながる」です。人が集まり、違いに拘っていたら何もできないということで、互いを受け入れるということがあると思います。関わりのない人が交わる場をつくり、情報交流していなければならないと、お話を聞いていて思いました。
- 委員 公共施設に少しおせっかいの機能を持たせるのはできると思いました。交流やつながりが生まれるように職員が積極的に声掛けするイメージです。
- 委員 大学ではPBL（Project Based Learning）とあって、プロジェクトマネジメント型の授業が積極的に取り入れられています。これが上手くいっているのは、フワとしたフォームだからだろうと思うのですが、そのために企業が何をやっているのか分かる媒体をつくっています。そんなふうに区民とプロジェクトをつなげる働きをするプラットフォームが大事だと思います。
- 委員 やりたいことを呟いたら後押しされて、それが実現するような印象を持ちました。社会教育センターがこうしたところから支援するというのもいいように思いました。
- 委員 まずは、社会教育センターなど行政が所管している場所をどうプラットフォーム化できるかということから具体的に考えていくのがいいと思います。実験という形でも一定期間やってみるといふところまで提案してもいいと思

ます。

- 議長 社会教育は脱目的的です。目的から離れてボランティアズムが湧いてくる場が必要ですが、目的的にできている行政がやるとなると、つい手を出してしまうところがあり矛盾してきます。個別具体的な知恵をいただきましたが、そういう意味では、とても示唆に富むと思いました。
- 委員 気付いていない人や自分から助けを求められない人に向けて、考えていかなければならないのではないのでしょうか。
- 委員 本当に必要な人たちは積極的に情報にアクセスしていないと思います。本来の社会教育と行政ができること、民間が頑張らなければならぬことを切り分けて議論しないと、前に進めないという感じを持ちました。それには、区民がもっと世の中を良くしようという気持ちを持つことがとても大切です。
- 委員 今のご意見に質問です。足りないように感じられているのは、地域での活動に「好き」があってもいいけれど、若者への寄り添いや支援を必要とする人への活動も重なっていくべきだということですか？
- 委員 貧困を無くさなければと思っています。貧困がある限り、そういう気持ちになれないですし、幸福な社会にならないと思います。社会教育のテリトリーではないですが、併せて考えなければいけないと思っています。
- 議長 SDGsの本質は他人の課題を自分事として捉えることで、それが公共の第一歩であり、社会教育だと思います。
制度、仕組みをどう整え変えるかという行政と、ボランティアズムに活動する市民の間にいるのが社会教育関係者です。制度の下で市民に刺激を与え、促すのが専門職員です。電話相談のように非対面である方がいいこともあるので、ネットを上手に使って声を吸い上げることはできると思います。
- 委員 社会教育センターにボランティアの相談窓口があって、社会教育士等が並走して意欲がある人の活動を支援するのも、ボランティアという言葉が惹き付ける広さから考えると可能性があると思いました。
- 委員 何かやりませんかという問いは漠然としていて、聞かれて困ってしまうこともあると思います。あなたは何に怒りを感じるか、何に心が燃えるか、そういう問いに変えた瞬間、急に社会 이슈が社会教育と接続し、学びたい人や助けを必要とする人に接触しやすくなると思います。
- 委員 子どもたちに「こんな大人にはなりたくない」というテーマを投げかけてトークを行ったところ、今までで一番盛り上がりました。嫌なことからやりたいことに行き着く手法もあり得ると思いました。
また、コンシェルジュのようにコーディネーターが施設にいて、ちょっと聞いたならそれに応えてくれると面白いと思いました。
- 議長 元々社会教育は大上段に構えて教えたり学んだりするものではなくて、とてもスモールな話です。実はスモールでないとボランティアズムが湧いてこない。そこがすごく大事だと思っているので、お話を聞いていてそのことを強く感じました。
- 委員 改めて小さくとか、スモールというのは大事だと思いました。ビジネスではプロトタイピングという手法がありますが、いろいろな人が何かをやるかたちで始めていくのがいいと思います。図書館の棚貸しのように、コストをかけず短期的にやってみて、やってみたらどうだったかというのをまた皆で検証して繰り返していくのが現実的だと思いました。
- 委員 公園を地域の人が気楽に出会える場にしようと、昨年6月頃から阿佐谷

けやき公園で、子ども相手に2時間程科学遊びをやっています。地域に対して触媒的な働きができればいいなと思います。今月から荻窪でもやります。

今の社会教育センターがやっていることは、話がきれい過ぎるように感じています。生身の人間が集まっている地域に溶け込んで、何ができるのか皮膚感覚で学ばないと現実離れしてしまいます。

- 社会教育センター所長 皆様のご意見、言葉一つひとつが胸に刺さっています。持ち帰って議論したいと思います。
- 社会教育センター社会教育推進担当係長（社会教育主事） これから作成していただく今期のまとめは、今後の我々の事業に関わる重要なこととなりますので、ぜひよろしく願いいたします。
- 議長 どうもありがとうございました。これで本日は閉会します。